

HEPTATHELA

VOL. 3, NO. 1

1984

九州クモの会
Spider Study Group of Kyushu

目 次

- ◇ ササグモ(*Oxyopes sertatus*)の外雌器の二型現象 吉 倉 眞 1
Epigynal dimorphism of a lynx spider, *Oxyopes sertatus*
(Araneae, Oxyopidae) Makoto YOSHIKURA

- ◇ 九州熊本のスサグモ類 吉 倉 眞 6
The lynx spiders of Kumamoto, Kyushu
(Araneae, Oxyopidae) Makoto YOSHIKURA

- ◇ 九州の洞窟産真正蜘蛛類 (VII) 入 江 照雄 13
Cave Spiders of Kyushu (VII) Teruo IRIE

- ◇ コガネグモの方言分布と地域交流 菊 屋 奈良義 23
A dialect map of the spider "*Argiope amoena* L.KOCH"
on the parallel zone with the east coast of OITA PREF. Narayoshi KIKUYA

- ◇ ジャバラグモ九州で発見 八木沼 健 夫 31
A tetrablemmid spider was found in Kyushu Takeo YAGINUMA

- ◇ 会誌投稿規定 33

- ◇ 会報投稿規定 33

ササグモ (*Oxyopes sertatus*) の外雌器の二型現象

吉 倉 眞

熊本市清水町高平151

Epigynal dimorphism of a lynx spider, *Oxyopes sertatus*

(Araneae, Oxyopidae)

Makoto YOSHIKURA

151 Takahira, Shimizu-machi, Kumamoto-shi, 860

Synopsis

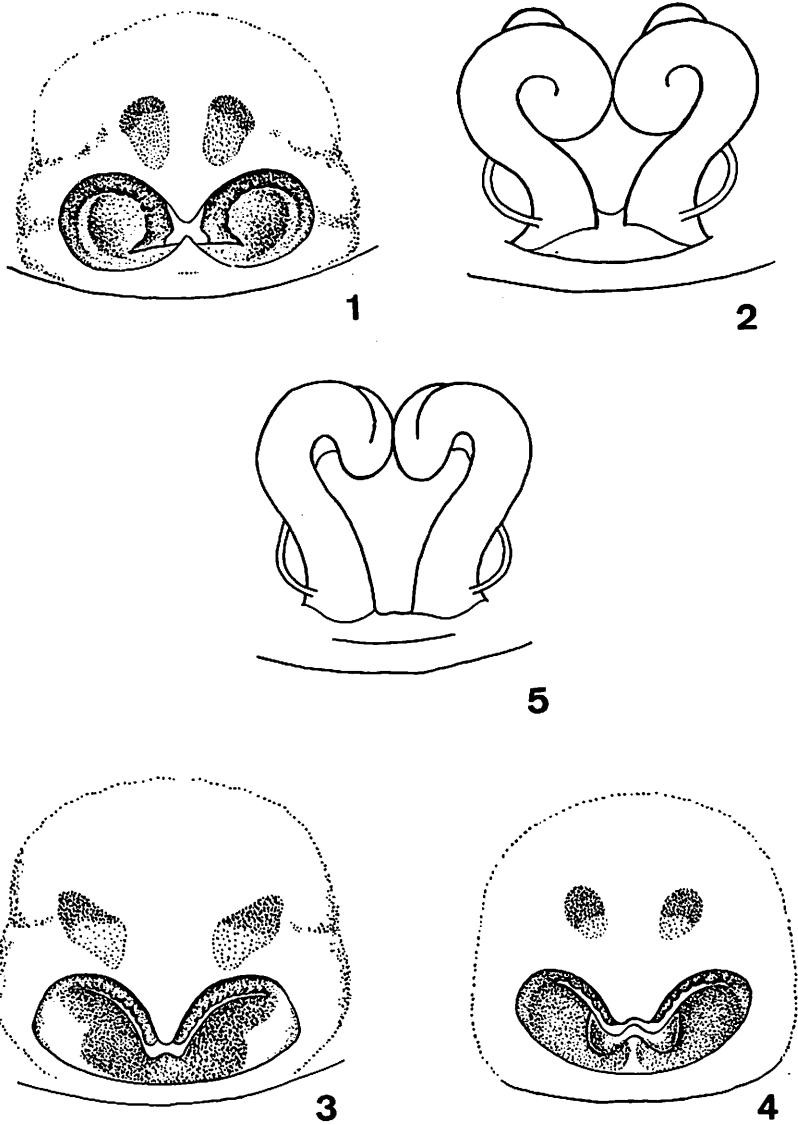
In structure two types of epigyna were found in the same local population of *Oxyopes sertatus*. In the A-type, on each side of the epigyne is a large round depression where the copulatory pore opens. The posterior rim of the epigyne has a Λ -shaped process (Fig. 1). In the B-type, above-mentioned depressions are covered by a well-developed, heavily sclerotized rim (Figs. 3, 4). Vulvae of both types are almost alike in structure (Figs. 2, 5).

The lynx spiders were collected by sweeping vegetation on the grassland in Yamamuro, Kumamoto-shi. As a result of examination of 132 females, two types of epigyna were estimated to be in the ratio 1:1. On the other hand, in 105 males collected in the same place morphological differences, including those of the palpal organs, were not recognized. Structural differences in the epigyna of this species are considered to be a case of dimorphism.

ササグモ (*Oxyopes sertatus*) は九州では各地に普通のもので、6月中旬~7月、雌雄とも成熟する。ところで熊本市のある地域で、外形、色彩とも差異は認めがたいが、ただ外雌器の形態だけが著しく違う個体群を発見した。このことに気付いたのは1982年のことだが、その後毎年調べてきて、どうみても外雌器に二型あるとしか思えないのでここに報告することにした。

外 雌 器 の 二 型

まず外雌器の二型について、ここに記すA型、B型とは便宜上の呼称で、A型というのが普



Figs. 1-5. *Oxyopes sertatus*, females from Yamamuro, Kumamoto-shi. 1. Epigyne of A-type. 2. Ditto, vulva, dorsal view. 3,4. Epigyne of B-type. 5. Ditto, vulva, dorsal view.

通のものである。

A型外雌器(図1) 外雌器域はほぼ台形で、その中央はやや膨らんでいる。前部両側に黒褐色の受精囊が透けてみえる。後部に外雌器がある。両側に大きな円形のくぼみがあり、そこに交尾口が開いている。周壁は硬く、黒褐色を呈している。外雌器の後縁隆起部の正中には、前方に向う山形の突起がある。交尾後、交尾口のくぼみに交尾栓がつく(吉倉, 1982)。

B型外雌器(図3, 4) A型と著しく違う点は、交尾口のあるくぼみが両方とも、外雌器後縁の著しく発達した隆起によって覆われ、狭いすき間を残しているきりである。後縁の隆起部は厚く、硬く、濃黒色を呈し、左右へ幅広くひろがっている。図4に示したものは、外雌器域正中の後方突出部が、図3のものに比しはるかに幅広く、またこれに対しては外雌器後縁正中の山形突起に、蝶形の両側やや凹んだ部域を形成している、珍しいタイプのものである。B型外雌器には、交尾後、交尾栓の形成はない。

外形はこのように著しく違っているが、内部構造はどうか。A型外雌器(図2)では、交尾口を入るとすぐ太い交尾囊となる。(交尾管だが、この場合は交尾囊といった方が適切。)これは前方で渦巻状に一回りして受精囊に連なる。受精囊からは細い受精管が出て後方へ走り腔に開く。B型外雌器(図5)の構造も、基本的にはこれと同様だが、交尾囊前端は折れ返って屈曲し受精囊に続いている点が違う。

なお BOESENBERG & STRAND (1906) *Japanische Spinnen* に図示しあるササグモの外雌器はここにいうB型のものである。

分布状態

B型外雌器をもつササグモは、熊本市清水町山室のため池付近の休耕水田の草地(広さ約300 m²)に、A型外雌器をもつものと混棲している。なおこの草地周辺にも多少いるが、そこを遠く離れた地域には、今のところ採集されてない。スリーピングによって昼間採集したものうち、メス成体の数だけを表1に示す。

表 1	採 集 年 月 日	採 集 地	A型	B型
	1982年6月18日～7月30日	山室, 高平	60	28
	1983年6月19日	山室	12	8
	1984年6月14日	〃	6	18
	合 計		78	54

A型の方がやや多いが、採集数を増せばほぼ1:1になるのではないと思われる。参考のため熊本市で上記以外の地で採集されたものの数を表2に示す。

表 2	採 集 年 月 日	採 集 地	A型	B型
	1970年7月31日	立田山	3	0
	1982年7月 7日	大窪	5	0
	”	八景水谷	9	0
	” 7月31日	西里	2	0
	合 計		19	0

なお手元に、従来県内各地で採集された本種の標本が若干あったのでそれらを調べてみた。それによるとB型外雌器をもつものが見出されたのは、阿蘇南外輪山の清水峠1 (1961年7月) と北向山2 (1973年6月22日)、それに球磨郡五木村1 (1982年8月1日) の3カ所だけであった。これらのうち清水峠と北向山からはA型のものは採れてない。これによってみるとB型外雌器をもつササグモは局地的に分布していることがわかる。

論 議

周知のごとくクモの分類に、メスでは外雌器、オスでは移精器官(触鬚器官)の構造が重視されている。したがってここで述べたB型外雌器をもつササグモを見つけた場合、まず別種ではないかと思うのが定道である。しかしそれにはその相手となるオスを見つけねばならない。採集のときオス成体も当然多数網に入ってくるので、それらの移精器官を注意して調べてみた。しかし別種とみなされるものはなかった。なお念のため、前記清水峠のオス(ここではB型外雌器をもつメスしか採れてない)も調べてみたが、普通のササグモとなんら異なるところがなかった。このようなことからササグモはみな同一種で、外雌器の形態的な差異は遺伝的なものとしか考えられないのである。なお1種とする根拠は、さきに述べたように両者の外形、色彩、斑紋がよく似ている。両者は混棲していて同一時期に成熟し、生態的に差異が見出せないことなどである。

ところで本種の外雌器に二型あることは筆者の発見かというとは決してそうでない。すでにPAIK (1969) は「韓国のササグモ科」の中に *O. sertatus* の外雌器を三通り図示している。しかしそれについてのコメントはない。筆者のみるところ、それらのうち図8はここにいうA型に、図9, 10はB型にあたる。

ササグモ科では、種によっては外雌器に多型現象をみる。BRADY (1964)によれば、例えば北米南部、ルイジアナ、テキサス、メキシコなどに分布している *O. aureus* の外雌器にかなり変わったタイプのものである。それらはおおむね2タイプに分けられる。一つは外雌器後縁の隆起中央に前方へ向う山形の突起あるもの(これは本報ササグモのA型外雌器と同タイプ)、他は外雌器後縁の隆起幅広く、厚く、著しく硬化していて濃黒色、中央部はU字形に深くえぐれている(これは本報ササグモのB型外雌器と同タイプ)。このような変異のタイプは *Oxyopes* 属の *acleistus* グループに共通的にみられる現象であるという。

八木沼博士はB型外雌器をもったササグモを淡路島で採集しておられるとのことなので、注意しておれば各地でもっと見つかることと思う。筆をおくにあたりご教示いただいた八木沼健夫、ササグモを恵与された入江照雄両氏にあつくお礼を申しあげる。

文 献

- BOESENBERG & STRAND (1906) Japanische Spinnen. Abh. senck. naturf. Ges. , 30.
- BRADY, A. R. 1964. The lynx spiders of North America, North of Mexico (Araneae: Oxyopidae). Bull. Mus. Comp. Zool. , Harvard Univ. , 131(13): 429-518.
- PAIK, K. Y. 1969. The Oxyopidae (Araneae) of Korea. Theses Coll. , Commem. 60th Birthday of Dr. IN SUCK YANG: 105-127.
- 吉倉 眞 1982. ササグモの貞操帯. HEPTATHELA, 2(2):43-46.

九州熊本のササグモ類

吉倉 眞

熊本市清水町高平151

The lynx spiders of Kumamoto, Kyushu (Araneae, Oxyopidae)

Makoto YOSHIKURA

151 Takahira, Shimizu-machi, Kumamoto-shi, 860

Synopsis

The lynx spiders of Kumamoto pref. are as follows : *Oxyopes sertatus*, *O. macilentus*, *O. koreanus* and *O. badius*. *O. sertatus* is common everywhere. *O. koreanus* and *O. badius* are mostly found in the Kyushu sanchi (Mountains). From the point of view of zoogeography, these three species are Korean elements and common in Korea. *O. macilentus* is rare in Kumamoto pref. This species is the oriental element and common in the Nansei islands in Japan.

Of these species the female epigyna and the male palpal organs were reexamined.

熊本県産として古くから知られているササグモ科のクモはササグモだけのようである (木庭, 1958; 入江, 西川, 1982; 吉倉, 1982)。このたびササグモの外雌器の二型性を調べるにあたり, 手持ちのササグモ科の標本全部を調べ, 新たにシマササグモ, チョウセンササグモ, クリチャササグモを見出したのでここに報告する。本文に, 既知種を含めて4種のササグモの識別点を簡単に記し, なお外雌器の構造について若干の知見を述べた。

1. ササグモ *Oxyopes sertatus* L. Koch, 1878

日本にごく普通のササグモ (八木沼, 1968; 新海・高野, 1984), 九州各地にも多数生息している。熊本産のもので, メス一 体長8.0~11.0mm, 背甲長3.5~4.5mm, 腹長5.0~7.0mm。オス一 体長8.0~9.0mm, 背甲長3.5~4.0mm, 腹長4.5~5.0mm。

採集地 (すべて成体だけを記す。以下同じ): 鹿本郡菊鹿町内田, ♀ 1 (1970—VIII・6), 山鹿市, ♀ 7, ♂ 4 (1982—VII・8), 飽託郡北部町西里, ♀ 2 (1982—VII・31), 熊本市立田山, ♀ 3 (1970—VII・31), 同市大窪, ♀ 5, ♂ 3 (1982—VII・7), 同市八景水谷, ♀ 9, ♂ 3 (1982

—VII・7), 同市清水町高平, ♀12 (1962—VI・26), 同, ♀15, ♂4 (1982—VI・18), 同, ♀33, ♂39 (1982—VI・21), 同, ♂1 (1982—VII・10), 同, ♀12 (1982—VII・30), 同市山室, ♀28, ♂12 (1982—VI・27), 同, ♀20, ♂25 (1983—VI・19), 同, ♀24, ♂24 (1984—VI・14), 阿蘇郡南外輪山清水峠, ♀1, ♂2 (1961—VII), 同郡久木野村, ♀2, ♂1 (1966—VII・19), 同郡北向山, ♀2 (1973—VI・22), 同郡西原町門出, ♀3, ♂1 (1970—VII・24), 球磨郡錦町, ♀1 (1970—VIII・2), 同郡五木村, ♀2 (1982—VIII・1), 天草郡松島町, ♀5 (1982—VIII・10), 同郡倉岳町, ♀2 (1982—VIII・11)

本種の外雌器の構造については、本誌別記の報文を参照されたい。オス成体の触肢の脛節にある突片はよく発達して内外両側にあり、外側のものは帯状にひろがり鈍鋸歯をそなえているのは特異である(図8)。

2. シマササグモ *Oxyopes macilentus* L. Koch, 1878

本種は古くから *Oxyopes* sp. として、四国、南九州、沖縄などに産することが知られていた(八木沼, 1967, 1968; 新海・高野, 1984)。前記ササグモに比べるとからだ全体が細長で、腹部背面の両側に黒褐色の縦すじがあるので識別は容易である。手持の採集品で、メス一体長9.0~10.0mm, 背甲長3.8mm, 腹長6.0~7.0mm。オス一体長8.0~9.0mm, 背甲長3.6mm, 腹長5.0mm。

採集地：天草郡松島町, ♀1 (1982—VIII・10)

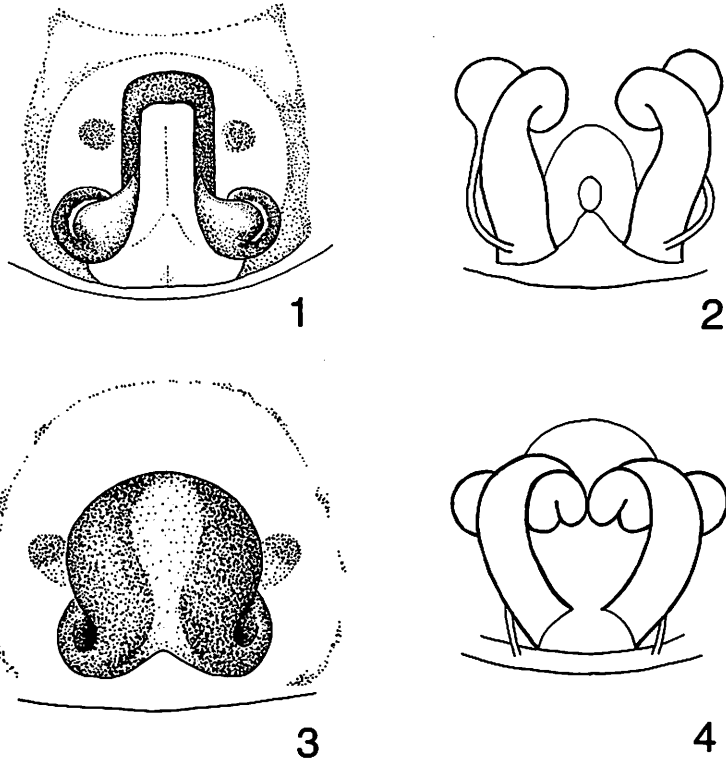
ほかに熊本市山室でメス亜成体1 (1982—VI・27)。県内での採集例は少ないが、筆者は屋久島、種子島、奄美大島などで多数採集している。

外雌器をみると(図1, 2), まず中央に短冊形の *scape* があって前方に向っている。その部分の外雌器板はくぼんでいるので, *scape* の基部はしっかり外雌器に付いているが, 先の方は離れている。*scape* の基部両側には丸くて硬い大きなふくらみがあり, その外側に交尾口を開く。内部構造は, 交尾口を入るとすぐ太い黒褐色の交尾囊となる。それは前端で屈曲し受精囊へ続く。受精囊からは細い受精管が出て後方へ直走し膈に開く。

オス成体の触肢で目立つのは、附節の先が細長くのびていることである(図9)。脛節の先端内外両側に突片があり、内側のものは半環状をなす。

3. チョウセンササグモ *Oxyopes koreanus* K. Y. PAIK, 1969

PAIK が1969年、韓国産のものを新種として記載したもので、ササグモに比べると体色が白っぽい、背甲の両側縁に黒色の斑点が4個並んでいる(これは若グモにもある)ことなどで容易に区別できる。熊本産のもので、メス一体長7.5~10.0mm, 背甲長3.5~4.5mm, 腹長4.5~6.5



Figs. 1-2. *Oxyopes macilentus*, female from Matsushima, Amakusa-gun. 1. Epigyne. 2. Vulva, dorsal view.

Figs. 3-4. *Oxyopes koreanus*, female from Takamori, Aso-gun. 3. Epigyne. 4. Vulva, dorsal view.

mm。オス一休長5.0~5.8mm, 背甲長2.8~3.0mm, 腹長3.0~3.5mm。

採集地：阿蘇郡高森町, ♀16, ♂2 (1982-VII・9), 同郡南外輪山清水峠, ♀2 (1961-VII), 同郡久木野村, ♀2, ♂1 (1966-VII・19), 球磨郡錦町, ♀1 (1970-VIII・2), 同郡五木村, ♀6 (1982-VIII・1)。

概して高地に多く, 分布は九州山地だけのようで, 大陸系のものと思われる。

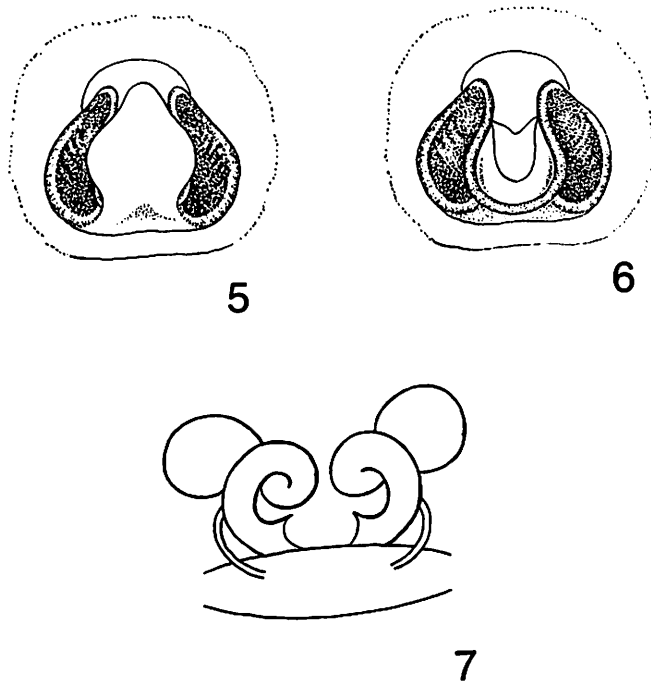
外雌器(図3, 4)は丸く高く隆起し, 対をなす黒褐色の交尾囊が透けてみえる。両側に交尾口がある。内部構造をみると, 交尾口を入るとすぐ太い交尾囊となり, 先端で屈曲し, 折れ返って受精囊に続いている。受精管は直走し腔に開く。外雌器はササグモ, シマササグモなどと外形は非常に違っているが, 内部構造はよく似ている。

オス成体の触肢(図10)では, 脛部の突片はシマササグモと同様あまり発達していない。跗節はシマササグモと違って長くのびていない。

4. クリチャササグモ *Oxyopes badius* YAGINUMA, 1967

体色が栗褐色をしているので他種との区別は容易である（八木沼，1967；新海・高野，1984）。熊本産のもので，メス—体長8.0～10.5mm，背甲長3.0～3.8mm，腹長5.0～6.0mm。オス—体長6.0mm，背甲長3.0mm，腹長3.5mm。

採集地：阿蘇郡高森町，♀ 4（1982—VII・9），同郡南外輪山清水峠，♀ 6，♂ 1（1961—VII），同郡久木野，♀ 1（1966—VII・19），球磨郡五木村，♀ 1（1982—VIII・1）。



Figs. 5-7. *Oxyopes badius*, females from Takamori, Aso-gun. 5. Epigyne. 6. Epigyne, no scape. 7. Vulva, dorsal view.

本種の分布もチョウセンササグモに似て九州山地に限られ，大陸系のものと思われる。

外雌器（図5，6，7）は広舌形のscapeをそなえているが，しばしばその脱落したものをみる。scapeの両側には曲玉形の硬い隆起があり，その後部に交尾口を開いている。内部構造は基本的には前記3種と同様だが，受精嚢が比較的大きく，交尾嚢が著しく湾曲していることなどが目立つ。

オス成体の触肢（図11）をみると、附節はまるみをおび、杯葉窩は深くそこに生殖球を収めている。脛節の突片は前記チョウセンササグモに似てあまり発達していない。脛節末端の外側には浅いくぼみがあり、その縁は硬く黒褐色、U字形をなす。内側に1小突片をそなえる。

韓国には本種によく似た *O. parvus* K. Y. PAIK, 1969 がある。命名者によると *badius* とは次の点で違うという。すなわち (1) 後中眼間の距離はそれらの直径の約2倍である (*badius* では約3倍)。(2) メスの脚式は2143 (*badius* では1243)。筆者の採集品でみると、*parvus* は雌雄とも *badius* によく似ている。両者の相違点(1)では、後中眼の直径は 0.18×0.12 mm、後中眼間の距離は0.36mmで、長径をとれば PAIK の記載に合う。(2)については1243となり、これは *parvus* と違う。しかし脚式には個体変異がかなりあり、(1)にしても(2)にしても、この程度の差異で別種とするのはどうかと思う。

中国には本種によく似たものに *O. licenti* がある。SCHENKEL が1919年5月24日、Kansu (甘肅省) 東南部で採集された2匹のオスをみて、新種として1953年に発表したものである。*badius* の命名者八木沼も、*parvus* の命名者 PAIK も本種の存在にふれていないが、無視できないと思うのでここに付記する。背甲長2.4mm、腹長3.2mmの小さなもので、頭胸部も腹部も褐色である。斑紋の記載を手元のクリチャササグモと照合してみると一手元にオスが一匹しかないので、メス、オスあわせて観察したのだが、両者はよく似ている。特にオスの触肢については、移精器官も脛節の突片も、図でみたところでは大体一致している。クリチャササグモによほど近いものと思われる。残念なことにメスの記載がないので同種かどうかは確言できない。今後の検討が望まれる。

ところで外雌器の *scape* がなぜ脱落するのかが問題である。*scape* の原基はすでに亜成体のときにみられるから、それは交尾栓と違って交尾後に取り付けられたものではない。PAIK は *scape* の形をいろいろ図示し、またそれのとれた外雌器の図も描いているが、ただそれだけのことでなんの説明もしていない。この *scape* が交尾に関係あるものとは容易に考えられるが、ではどう役立っているのか。交尾のとき、オスは、この *scape* に、触肢の脛節をひっかけて移精をはたす。交尾後、一定の部位から *scape* は脱落する。それでこの *scape* を失ったメスは、もはやオスと交尾することができないしくみになっているのではあるまいか。このことについても今後よく調べてみる必要があるだろう。

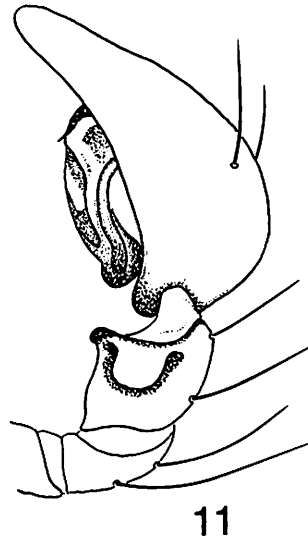
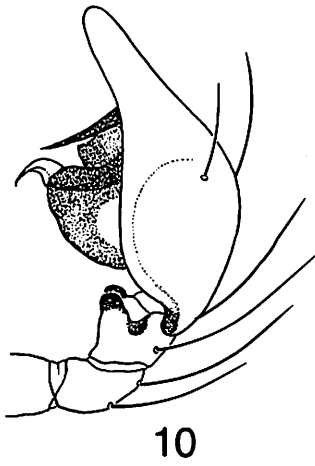
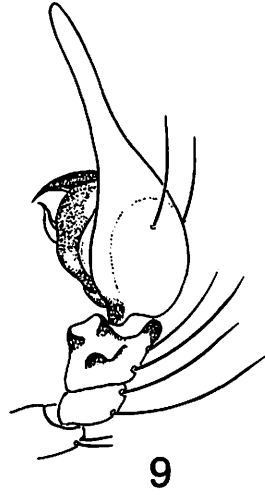
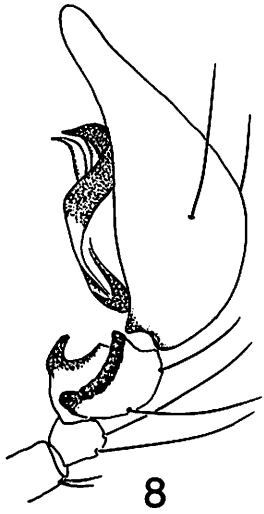


Fig. 8. *Oxyopes sertatus*, left palp of male from Kumamoto-shi, lateral view.

Fig. 9. *Oxyopes macilentus*, left palp of male from Yaku shima, lateral view.

Fig. 10. *Oxyopes koreanus*, left palp of male from Takamori, Aso-gun, lateral view.

Fig. 11. *Oxyopes badius*, left palp of male from Kiyomizu-tôge, Aso-gun, lateral view.

文 献

- 入江照雄・西川喜朗. 1982. 菊池溪谷のクモ. 菊池溪谷の動物. 熊本洞穴研究会 .pp.179—185.
- 木庭 奏. 1958. 熊本県で見られるクモ (1) ATYPUS, (15) : 3—16.
- SCHENKEL, E. 1953. Chinesische Arachnoidea aus dem Museum Hoangho-Peiho in Tientsin. Bolm. Mus. nac. Rio. de J. (N. S., Zool.) 119 : 1—108.
- PAIK, K. Y. 1969. The Oxyopidae (Araneae) of Korea. Theses Coll. Commem. 60th Birthday of Dr. IN SUCK YANG : 105—127.
- 新海栄一・高野伸二. 1984. フィールド図鑑クモ. 東海大学出版会.
- 八木沼健夫. 1967. 日本産真正蜘蛛類の検討・追加ならびに7新種の記載. Lit. Dept. Rev. Otemon Gakuin Univ. (Osaka, Japan). no. 1 : 87—107.
- 1968. 原色日本蜘蛛類大図鑑 (増補改訂) . 保育社.
- 吉倉 眞. 1982. ササグモの貞操帯. HEPTATHELA, 2 (2) : 43—46.
- 1984. ササグモ (*Oxyopes sertatus*) の外雌器の二型現象. HEPTATHELA, 3 (1) : 1—5.

九州の洞窟産真正蜘蛛類 (VII)

入 江 照 雄

熊本県立教育センター

Cave Spiders of Kyushu (VII)

Teruo IRIE

Kumamoto Education Center, Yamaga-City, Kumamoto

前回の報文 (VI-1983) に追加されるべき洞窟, 新産地のクモならびに新しく目録に追加されるクモについて述べる。

本研究にあたり, 終始変わらぬご指導を賜っており, また今回本文の校閲をお願いした追手門学院大学の八木沼健夫博士, ならびに種々ご指導ご教示いただいている熊本大学名誉教授の吉倉 眞博士, 国立科学博物館の上野俊一博士に対し謹んで感謝の意を表す。なお, 調査にご協力いただいた熊本洞穴研究会の船越公威 (水無洞), 木下信博 (長崎県内洞窟) の両会員に対し厚くお礼を申し上げる。

九州の洞窟 (追加)

A list of caves newly surveyed in Kyushu (Addendum)

著者の調査により, 前回 (VI-1983) までにリストに新しく追加される洞窟は, 福岡県 1 カ所, 長崎県 5 カ所の合計 6 カ所である。洞窟番号は前回 (1-VI) からの続きである。

〔福岡県〕

171. 水無洞 Mizunashi-dô Cave (糸島郡前原町) 石灰洞, 800m。

〔長崎県〕

172. 鳩穴 Hato-ana Cave (南高来郡小浜町普賢岳) 溶岩洞, 70m。

173. 高浜の穴 Takahama-no-ana Cave (西彼杵郡野母崎町高浜) 海蝕洞, 22m。

174. 淵ヶ洞 Fuchiga-dô Cave (西彼杵郡西海町七ッ釜) 砂岩洞, 70m以上。

175. 流水洞 Ryusui-dô Cave (同 上) 砂岩洞, 15m以上。

九州の洞窟産クモ目録 (追加)

A list of spiders found in caves of Kyushu (Addendum)

次に、新産地のクモと目録に新しく追加されるクモについて述べる。このリストの分類は、前回までと同様、八木沼氏の「日本産真正蜘蛛類目録」(1977改訂)に従った。種名番号の頭に付した記号は八木沼(1976)に準拠した分類である。洞窟名のあとの()内の番号は、洞窟リストの番号である。なお、産地・新産地に採集者名のないものは、すべて著者による採集である。

[新 産 地 の ク モ]

- ・ 4. *Uloborus varians* Bös. et STR. ウズクモ
(Uloboridae ウズクモ科)
 - 分 布：北海道・本州・四国・南西諸島
 - 既知産地：米塚の穴(8), こうもり穴(12), 布勢洞(16), 風神洞(17), 川原谷の穴(28), 賁の穴(30), 大金峰洞(34), 九折瀬洞(55), 内谷洞(62), 山口洞(68), 北宮の穴(79), 太子ヶ岩屋(84), 乳ノ窟(86), 仲塔洞(91), 松木稲荷の穴(92), 尾平野洞(107), 天狗岩の穴(118), 古処の風穴(122), 川原内の穴(145), 火灯洞(146), ホーオン池下の試掘坑(152), 火灯の小穴(153), 金穴(156), 水無洞(171)
 - 新産地：立神洞(22) [22-X II-1968, 1♂], 仲塔の小穴(119) [5-V-1979, 1♂], 高浜の穴(173) [23-VII-1984], 流水洞(175) [24-VII-1984, 1♀]
- ・ 8. *Achacaranea tepidariorum* (C. KOCH) オオヒメグモ
(Theridiidae ヒメグモ科)
 - 分 布：北海道・本州・四国・九州・対馬・南西諸島
 - 既知産地：鬼の岩屋(2), 穴八幡の穴(3), くだり穴(7), こうもり穴(12), 風神洞(17), 第一椿洞(18), 第二椿洞(19), 大金峰洞(34), 神瀬洞(41), 黒仁田洞(49), 九折瀬洞(55), 大野洞(72)
 - 新産地：狩生洞(134) [22-VI-1984, 2♂ 1♀], 高浜の穴(173) [23-VII-1984, 1♀], 流水洞(175) [24-VI-1984, 1♀]
- ・ 10. *Theridion ferrumequinum* Bös. et STR. ヒザブトヒメグモ
(Theridiidae ヒメグモ科)
 - 分 布：北海道・本州・四国・九州

- 既知産地：鬼の岩屋(2), 穴八幡の穴(3), 内谷洞 (62), 大將軍の穴 (102), 尾平野洞 (107), くまそ穴 (113), 坂下穴 (114), 狩生洞 (134), 猪権現穴 (135), 中岳洞 (154), 平沢津の廃坑 (166)
- 新産地：五色の穴 (75) [29—VI—1975, 1 ♂]
- 11. *Theridion yunohamense* Bös. et STR. ユノハマヒメグモ
(Theridiidae ヒメグモ科)
 - 分 布：北海道・本州・四国・九州
 - 既知産地：須ノ子洞 (14)
 - 新産地：内谷洞 (62) [2—VI—1984, 1 ♀]
- ◎17. *Conoculus lyugadinus* KOMATSU ヨリメグモ
(Anapidae ヨリグモ科)
 - 分 布：本州・四国・九州・沖縄
 - 既知産地：穴ん城の穴(1), 穴八幡の穴(3), 風神洞 (17), 賁の穴 (30), 千人隠洞 (45), 黒仁田洞 (49), 初神の岩屋 (64), 大白尾隊道 (89), 仲塔洞 (91), 大將軍の穴 (102), 野添の穴 (103), 祇園の穴 (104), 溝ノ口洞 (109), 青葉台の穴 (121), 千仏鍾乳洞 (126), 岩屋第一鍾乳洞 (132), 清水洞 (133), 小半鍾乳洞 (137), こうもり穴 (144), 太鼓橋の穴 (147), 穴森の穴 (148), ホーオン池下の試掘坑 (152), 小原の穴 (161), 平沢津の廃坑 (166)
 - 新産地：流水洞 (175) [22—VII—1984, 1 ♂], 先不知井坑 (五島) [3—IV—1970, 21—VIII—1969, 4—V—1970, 上野・山口両氏採]
- ◎19. *Meta menardii* (LATREILLE) サンロウドヨウグモ
(Araneidae コガネグモ科)
 - 分 布：北海道・本州・四国・九州 (韓国, ヨーロッパから北米にかけて分布)
 - 既知産地：須ノ子洞 (14), 岩戸洞 (31), 御池の穴 (33), 大金峰洞 (34), 二合の穴 (35), 古処の風穴 (122)
 - 新産地：普賢岳の風穴 (168) [3—VII—1983, 1 ♀ y], 鳩穴 (172) [24—VII—1984, 1 ♂ 1 ♀]
- ◎23. *Heteropoda forcipata* (KARSCH) コアシダカグモ
(Heteropodidae アシダカグモ科)
 - 分 布：本州・四国・九州・対馬・南西諸島
 - 既知産地：立神の穴 (23), 西の岩洞 (36), 矢山岳のたて穴 (38), 高沢洞 (48), 荒地の穴 (63), 告洞 (70), 中河内洞 (74), 童子滝の穴 (90), 祇園神社の窟

(106), 荒茂の穴 (116), ホーオン池下の試掘坑 (152)

- 新産地：新地の穴 (76) [27-IX-1981, 2 ♀], 第二新地の穴 (157) [27-IX-1981, 1 ♀], 第三新地の穴 (158) [27-IX-1981, 1 ♀], 狩生洞 (134) [22-VI-1984, 1 ♂ 2 ♀]

◎32. *Coelotes insidiosus* L. KOCH シモフリヤチグモ

(Agelenidae タナグモ科)

- 分布：北海道・本州・四国・九州・対馬・南西諸島
- 既知産地：大瀬洞 (42), 告洞 (70)
- 新産地：片野洞 (110) [28-X-1983, 1 ♂], 中岳洞 (154) [27-X-1982, 3 ♂], 小原の穴 (161) [12-VI-1984, 1 ♀]
- 以前, 祇園神社の窟 (106), 尾平野洞 (107), くまその穴 (108), 片野洞 (110), 黒川洞 (112), 権現穴 (115), 中岳洞 (154) の南九州の洞窟から記録していたヤチグモの♀個体は, *C. insidiosus* 近似種とされていたクモである。—祇園神社の窟 (11-XII-1974, 1 ♀), 尾平野洞 (11-III-1979 2 ♀, 27-III-1982 1 ♀, 28-X-1983 2 ♀), くまその穴 (7-V-1973 1 ♀), 片野洞 (18-XII-1975 2 ♀, 25-VI-1983 3 ♀), 黒川洞 (20-III-1976 1 ♀), 権現穴 (10-III-1979 1 ♀), 中岳洞 (23-XI-1980 4 ♀, 27-III-1982 2 ♀, 27-X-1982 1 ♀, 1-VII-1984 3 ♀)
- 今回, ♀個体を再検討した結果, *C. insidiosus* 近似種としていたクモは, *C. insidiosus* の♀の変異個体ではないかと考えている。すなわち, *C. insidiosus* の *epygnum* には二型あると考えられる。それは, 次のような理由からである。

- (1)前記のそれぞれの洞窟から, *C. insidiosus* の♀, *C. insidiosus* 近似種の♂が採れていない。
- (2)片野洞・中岳洞から採れた♂は, すべて *C. insidiosus* の♂である。
- (3)洞窟という非常に狭い生息環境に, *C. insidiosus* と *C. insidiosus* 近似種の2種が生息している可能性は少ない。
- (4)*C. insidiosus* 近似種とされていた♀の *genitalia* の形態は, 基本的に *C. insidiosus* のものとよく似ている。(Fig 1-5)
- (5)大瀬洞産の♀：体長10.2mm, 後牙堤に3歯, 前中眼最大, 中眼域の長さ=幅, 幅は前辺と後辺等しい。

中岳洞産の♀：体長10.0mm, 片野洞産の♀：体長12.5mmの両個体とも, 大瀬洞の♀の形態的特徴と同じである。

- ♀(*epygnum*)の二型(A型, B型とする)については, もっと多くの洞内外からの個体

を得て検討し、さらに大瀬洞と中岳洞との個体間の交配実験も試み、別の機会で論ずることにする。

従来シモフリヤチグモの♀をA型、シモフリヤチグモ近似種としていた♀をB型としておく。

◎34. *Nesticus higoensis* YAGINUMA ヒゴホラヒメグモ

(Nesticidae ホラヒメグモ科)

分 布：九州

既知産地：構口の穴(4)、構口のY字穴(5)、構口の二つ穴(6)、くだり穴(7)、米塚の穴(8)、笠石の穴(9)、笠石の小穴(10)、笠石の通り穴(11)、こうもり穴(12)、須ノ子洞(14)、セツ迫の穴(15)、風神洞(17)、大金峰洞(34)、二合の穴(35)、西の岩洞(36)、水無谷の穴(40)、黒仁田洞(49)、九折瀬洞(55)、九折瀬小穴(56)(模式産地)、吐合洞(59)、古処の風穴(122)、青龍窟(123)、千仏鍾乳洞(126)、広谷の穴(127)、こむそう穴(130)、岩屋第二鍾乳洞(155)、金穴(156)、白石の穴(159)、市房山(熊本、洞外)

新産地：井原山の廃坑(151)[13-V-1981, 1♂y], 水無洞(171)[25-III-1984, 1♂1♀]

井原山の廃坑の♂yは飼育の結果、28-VIII-1981に成体となる。

◎47. *Leptoneta iriei* KOMATSU イリエマシラグモ

(Leptonetidae マシラグモ科)

分 布：九州

既知産地：第一椿洞(18)(模式産地)、第二椿洞(19)、球泉洞(大瀬のたて穴)(43)、新地の穴(76)、大將軍の穴(102)、野添の穴(103)、祇園の穴(104)、祇園神社の窟(106)、尾平野洞(107)、くまその穴(108)、片野洞(110)、岩屋観音(111)、くまそ穴(113)、井原山の廃坑(151)

新産地：水無洞(171)[25-III-1984, 2♂2♀], 鳩穴(172)[24-VII-1984, 1♂1♀]

◎49. *Leptoneta* sp. A マシラグモの1種

(Leptonetidae マシラグモ科)

分 布：九州

既知産地：構口の穴(4)、構口のY字穴(5)、構口の二つの穴(6)、くだり穴(7)、米塚の穴(8)、笠石の穴(9)、笠石の小穴(10)、笠石の通り穴(11)、こうもり穴(12)、権現山洞(78)、太子ヶ岩屋(84)、七折鍾乳洞(87)、松木稲荷の穴(92)、金穴(156)

- 新産地：九折瀬洞 (55) [9-X-1983, 1♂2♀]

◎61. *Heteropoda stellata* SCHENKEL ヒメアシダカグモ

(Heteropodidae アシダカグモ科)

- 分布：本州西部・九州
- 既知産地：米塚の穴(8), 天狗岩の穴 (118), 川原内の穴 (145), 大将かくしの穴 (150), 平沢津の廃坑 (166), 洞外一英彦山 (福岡), 国見山・甫与志岳 (鹿児島), 北向山・市房山・菊池溪谷 (熊本)
- 新産地：内谷洞 (62) [2-VI-1984, 1♀], 水無の穴 (96) [6-IV-1971, 1♀]

◎64. *Arucuphantes* sp. A ヤミサラグモの1種 (新種候補)

(Linyphiidae サラグモ科)

- 分布：九州
- 既知産地：坂谷の風穴 (21), 松木稻荷の穴 (92), 天狗岩の穴 (118), 猪権現穴 (135), コウモリ穴 (140), 川原内の穴 (145), 大将かくしの穴 (150), 洞外一権現山・北向山・菊池溪谷 (熊本)
- 新産地：狩生洞 (134) [31-VIII-1982, 2♀]

[目録に新しく追加されるクモ]

◎63. *Arcuphantes* sp. B ヤミサラグモの1種 (新種候補)

(Linyphiidae ササグモ科)

- 体長：♂2.5~2.8mm, ♀2.2~2.5mm。
- 新分布：九州
- 産地：内谷洞 (62) [10-VII-1983, 1♂1♀], 鳩穴 (172) [24-VII-1984, 1♀]
- 前回の報文 (VI) で NO. 63 *Leptoneta* sp. I マシラグモの1種として報告した鯛生金山の廃坑 (167) のマシラグモは, 再検の結果, *Leptoneta* sp. F チブサン古墳 (163) 産と同種であることが判った。
- NO.63 は, *Arcuphantes* sp. B に変更する。

• 72. *Meta reticuloides* YAGINUMA ヤマジドヨウグモ

(Araneidae コガネグモ科)

- 体長：♂5mm, ♀7.5mm。
- 分布：本州・四国・九州・対馬・南西諸島
- 産地：松木稻荷の穴 (92) [25-VIII-1981, 1♂], 中岳洞 (154) [22-VIII-1981, 1♀]

◎73. *Coelotes uenoi* YAMAGUCHI et YAGINUMA ウエノヤチグモ

(Agelenidae タナグモ科)

○体 長：♀10～11mm。

○新 分 布：九州

○産 地：先知不井坑〔五島，21-VIII-1969，山口氏採，3-IV-1970，上野氏採〕，野穴〔五島，4-IV-1970，上野氏採，30-IV～4-V-1970，山口・江島両氏採〕，ユリ穴〔五島，5-IV-1970，上野氏採〕，通し穴〔五島，4-IV-1970，上野氏採〕

◎74. *Cybaeus gotoensis* (YAMAGUCHI et YAGINUMA) ゴトウナミハグモ

(Agelenidae タナグモ科)

○体 長：♂4.8mm，♀5.7mm。

○新 分 布：九州

○産 地：先知不井坑〔3-IV-1970，上野氏採〕，野穴〔4-IV-1970，上野氏採〕

◎75. *Nesticus* sp. ホラヒメグモの1種 (新種候補)

(Nesticidae ホラヒメグモ科)

○体 長：♂4.3～4.8mm，♀4.2～5.0mm

○新 分 布：九州

○産 地：清水洞 (133)〔24-VII-1984，1♀〕，普賢岳の風穴 (168)〔3-VII-1983，1♀〕，鳩穴 (72)〔15-IV-1984，2♂y〕，淵ヶ洞 (174)〔24-VII-1984，1♂1♀入江・木下〕，流水洞 (175)〔24-VII-1984，1♀〕

○鳩穴 (15-IV-1984) で採集した♂yは飼育の結果，28-IV-1984に成体となる。

○♂♀の生殖器の外部形態は，大分産の *Nesticus karyuensis* によく似ている。

○このクモは，目下研究中で新種として発表予定のものである。

ま と め

1. 現在までに，著者が確認し調査した洞窟は，福岡県16カ所，長崎県8カ所，大分県18カ所，熊本県94カ所，宮崎県29カ所，鹿児島県10カ所の合計175カ所である。
2. 今回，目録に追加されたクモは5種となる。前回 (1-VI) までに報じたクモを加えると75種となる。
3. 九州内のシモフリヤチグモの雌には二型あると考えられる。今後，洞窟外からの資料収集に努め，さらに交配実験も試み，比較研究していきたい。

文 献

前回 (1—VI) までに掲げた文献は省略する。

Heikki HIPPA and Ilkka OKSALA, 1983. Epigynal variation in *Enoplognatha latimana* HIPPA & OKSALA (Araneae, Theridiidae) in Europe. *Bull. Br. arachnol. Soc.* 6 (3) : 99—102.

入江照雄, 1983. 九州の洞窟産真正蜘蛛類 (VI) . *Heptathela*, 2 : 74—79.

西川喜朗, 1975. シモフリヤチグモおよびヤマヤチグモとその近似種 (東亜蜘蛛学会第6回大会講演要旨) . *Atypus*, (63) : 15.

—————1977. 大阪府箕面産ヤチグモの3新種. *Acta arachnol.*, 27 (Special number) : 33—43.

垂水有三, 1981. ホラヒメグモに関して—Part I—ホラヒメグモの飼育法及び既知種の新分布. *Atypus*, (78) : 13—16.

八木沼健夫, 1981. Two Nesticid Spiders from Shikoku, Japan. *J. Soc. Japan*, 6 : 29—32.

- Fig.1 1. *Coelotes insidiosus* ; Male palp (from Nakatake-dô Cave).
2. Same species ; Patella and tibia of male (same).
3. Same species A-type ; Genitalia, ventral view (from Ohse-dô Cave).
4. Same species A-type ; Genitalia, dorsal view (same).
5. Same species B-type Genitalia, ventral view (from Nakatake-dô Cave).
6. Same species B-type ; Genitalia, dorsal view (same).
7-8 *Arcuphantes* sp. ; Male palp (from Uchidani-dô Cave).
- Fig.2 9. *Arcuphantes* sp. ; Chelicera of female (from Uchidani-dô Cave).
10. Same species ; Chelicera of male (same).
11. Same species ; Epigynum, ventral view (same).
12. Same species ; Epigynum, lateral view (same).
13. *Nesticus higoensis* ; Epigynum, ventral view (from Mizunashi-dô Cave)
14. Same species ; Same, lateral view (same).
15. Same species ; Paracymbium of male (same).
16-17. Same species ; Same (from Iharayama no abandoned Mine).
18. *Nesticus* sp. ; Epigynum, ventral view (same).
19. Same species ; Same, lateral view (same).
20. Same species ; Paracymbium of male (same).
21. Same species ; Same (from Hato-ana Cave).

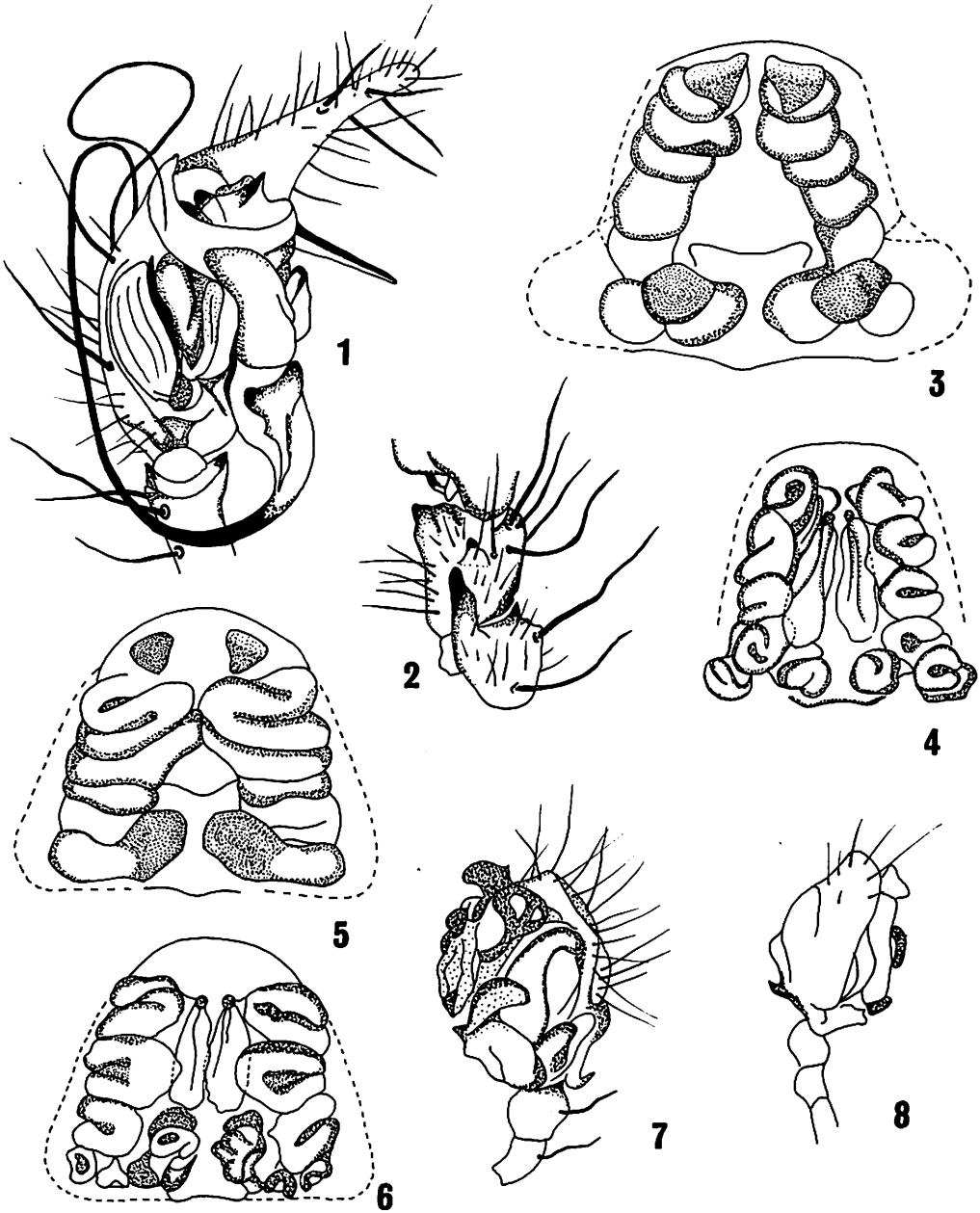


Fig.1

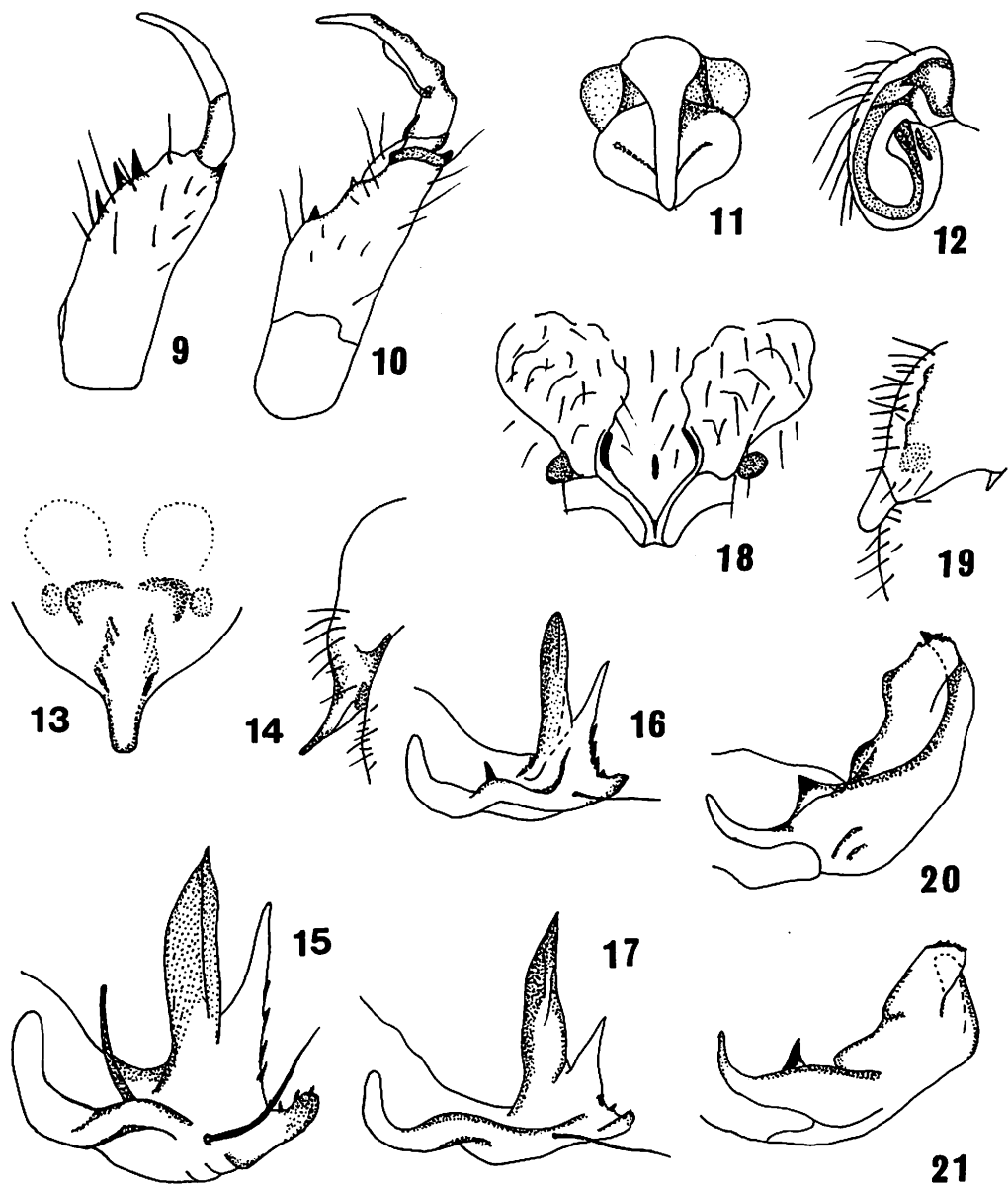


Fig.2

コガネグモの方言分布と地域交流

菊 屋 奈良義

（俳イカリテクノス）

A dialect map of the spider "*Argiope amoena* L. KOCH"
on the parallel zone with the east coast of OITA PREF.

Narayoshi KIKUYA

kikuchi bldg. No.3, 2-4-16 Suehirocho, Oita City, 870

まえがき

コガネグモ (*Argiope amoena* L. KOCH) を「ジョーラン」と呼んで育ったが、クモに親しむに従って、おそらく「ジョログモ」の呼称がなまったものであろうと、勝手に理解していた。

去る1980年、中平 清氏（高知）の依頼により、大分県下沿岸部における、コガネグモの地域方言の収録を行った結果、この方言の地域変化が、豊後水道海域をはさんだ対岸の地域と、大分県側の沿岸地域との人類文化の交流をうかがわせる資料を得たので、中平氏の御了承を得て紹介させていただく。

この方言を収録するにあたって、大分県下の沿岸各地に散在する多くの小・中学校の理科担当教諭に、積極的な御協力をいただいたことを銘記して、深く感謝の意を表する。

調査の概要

- (1) 調査期間 1980年3月10日～3月末日
- (2) 調査地域 大分県下東部海岸地域沿岸（図一1）
- (3) 調査手法 アンケート（図一2）及び直接聞き取り
- (4) 調査協力者 蒲江町立深島中学 三池修教諭外31名

調査結果

- (1) 調査用アンケート配布先 35カ所
- (2) 回答返信受信 32校（回収率91.4%）
- (3) 回答先一覧表 表一1のとおり

表一 2 コガネグモの地方名(方言)

番号は分布図番号

番号	地 域 名 ()は地名の読み	コガネグモ系	ジョログモ系	ダイラ系	その他	備 考
1	中津市海岸部		ジョログモ		ヘイタイグモ	
2	宇佐市柳ヶ浦 (やなきがうら)		ジョログモ		ケンカグモ	
3	豊後高田市呉崎		ジョログモ		ケンカグモ	
4	東国東郡国見町竹田津 (たけたづ)		ジョログモ		ケイサツグモ	
5	〃 〃 伊美		ジョログモ		ケイサツグモ	
6	〃 〃 姫島村		ジョログモ			
7	〃 〃 国東町富来浦 (とみくうら)		ジョログモ			
8	〃 〃 田深		ジョログモ			
9	〃 〃 武蔵町 (むさしまち)				ゲンジグモ	
10	〃 〃 安岐町 (あきまち)		ジョログモ		チョウセングモ タイジョウグモ	
11	杵築市守江		ジョログモ			
12	速見郡日出町 (ひじまち)		ジョログモ			
13	別府市海岸部		ジョログモ			
14	大分市(西大分)八幡 (やはた)			ジョウラン	ヘイタイグモ	
15	〃 〃 鶴崎		ジョログモ		ヘイタイグモ	
16	〃 〃 坂ノ市		ジョログモ			
17	北海部郡佐賀岡町白木		ジョログモ			
18	臼杵市佐志生 (さしゅう)		ジョログモ			
19	〃 〃 下の江		ジョログモ			
20	〃 〃 深江			ジョウヤン		
21	津久見市無垢島 (むくしま)			ゲ ー ラ ン	ケンカグモ	
22	〃 〃 保戸島 (ほとじま)			デ イ ラ ン		
23	〃 〃 日代(日見・網代)(ひじろ)			デ ー ラ ン		
24	〃 〃 落ノ浦			デ イ ラ ン		長目・デイラ
25	〃 〃 仙水・赤崎			デ ー ラ ン		市内・レイラ
26	南海部郡上浦町蒲戸 (かまど)			ダ イ ラ		
27	〃 〃 福泊 (ふくどまり)			ダ イ ラ		
28	〃 〃 浅海井 (あざむい)			ペ イ ラ ン		
29	〃 〃 津井			ペ ー ラ ン		
30	〃 〃 夏井			ペ ー ラ ン		
31	〃 〃 浪太 (なぶと)			ペ ー ラ ン		
32	佐伯市西上浦			チ ョ ー ラ イ		
33	〃 〃 狩生			チ ョ ー ラ イ		
34	〃 〃 海崎			ダ イ ラ		
35	〃 〃 大入島久保浦			ジョウラン		
36	〃 〃 高松			ジョウラン		
37	〃 〃 荒網代 (あらじろ)				ホ ン グ モ	
38	〃 〃 石間			ダ イ ラ		
39	〃 〃 市街地			タ イ ラ ン	ダイミョウグモ	ターラングモ
40	南海部郡鶴見町大島			タ ー ラ ン		
41	〃 〃 中浦・羽出浦(はいでうら)			タ ー ラ ン		
42	〃 〃 米水津村間越 (はぎこ)	コガネグモ		ダ イ ラ		タ ー ラ ン
43	〃 〃 浦代浦				ホ ン グ モ	
44	〃 〃 小浦			ダ イ ラ		
45	〃 〃 竹野浦				ト ノ	
46	〃 〃 蒲江町西野浦河内		ジョログモ			
47	〃 〃 河内				テ ン グ モ	
48	〃 〃 蒲江浦				ホ ン グ モ	チナガホングモ
49	〃 〃 丸市尾 (まるいちび)		ジョログモ			
50	〃 〃 深島				ホ ン グ モ	

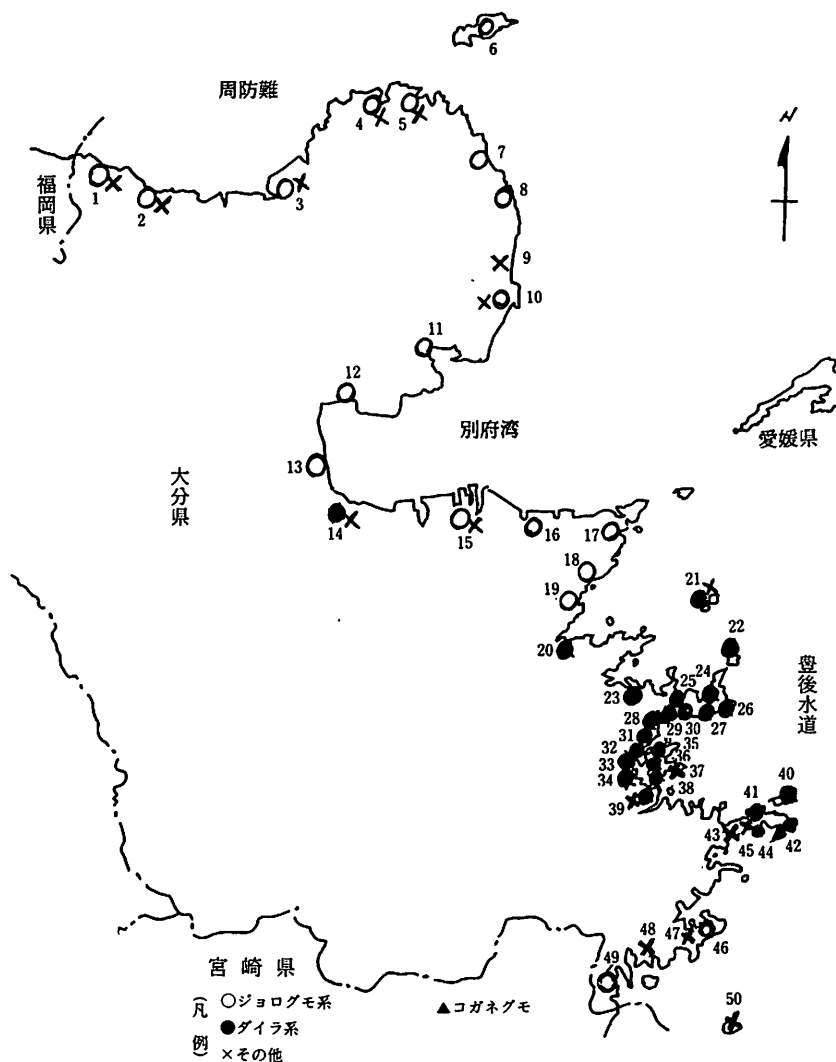


図-3 コガネグモの地方名分布状況

- (4) 方言分布状況 アンケート集約の結果を一覧にしたものを表-2 に示し、方言の地域分布状況を図-3 に示した。

調査結果の検討

- (1) 大分県下沿岸部の方言

コガネグモ (*Argiope amoena* L.Koch) に関する大分方言は、県北の中津・宇佐・国東・別府・大分・佐賀関・各地域では、「ジョログモ」または「ジョロウグモ」が主流である。

これに対して、県南部の蒲江・米水津・佐伯・津久見・臼杵・佐志生各地域では、「ダイラン」「デーラン」「ダイラ」「ジョーラン」などと変化に富んではいるが、いずれも「ダイラ」の地方変化と考えられるものが主流である。

佐伯地域（県南）の大入島久保浦及び高松地域で呼ばれている「ジョウラン」が、大分地域（県央）の西大分地区で「ジョウラン」と呼んでいることと符合するほか、「ダイラ」「デーラン」「ペーラン」「ゲーラン」などと、県南沿岸の地域方言変化に連続性がうかがわれる。

(2) コガネグモと教育実習

回答32校のうち、県南の南海部郡米水津村にある向陽小学校間越分校では、その周域全部が「ダイラ」「デーラン」「ダイラン」の区域であるのに、全く独立の「コガネグモ」地区である。

調査の結果、同分校は大分大学教育学部の「僻地教育実習のため、教育実習生が反復派遣されていた地区であり、分校の理科教育での指導と、子供達の遊びが密着しているだけに、図鑑などによる「コガネグモ」が婦女子に定着している。

全戸数17戸のうち成人男子30歳以上では、「ダイラン」「タイラン」と呼称していることを、聞き取りによって確認することが出来た。

(3) 方言の変化

県北の「ジョログモ」「ジョロウグモ」は、ほぼ全県域に拡散して使用されていることを知見しているが、沿岸地域でも、県南部まで分散が見られる。

これに反して、県南の「ダイラ」「ダイラン」などは、県南部を中心に沿岸各地の、大分市以南にだけ分布する呼びかたである。

そこで、沿岸各地のコガネグモの方言を整理すると、次のように大別3グループにわけられる

●ジョログモ系

ジョログモ・ジョロウグモ

●ダイラ系

ダイラ、ダイラン、デーラン、デイラン、ペーラン、ペイラン、ターラン、タイラグモ、ターラグモ、チョーライ

●その他

ヘイタイグモ、ケンカグモ、ケイサツグモ、タイショウグモ、チョウセングモ、ゲンジグモ、ホングモ、ダイミョウグモ、トノ、テングモ、テナガホングモ

ここで、大入島久保浦と高松で呼ばれる「ジョーラン」と、大分市八幡地区で呼ばれる「ジ

ョーラン」について検討すると、「ジョーラン」は何れも「Jyōran」と発音されているし、大分市八幡地区には、大入島、佐伯市海崎(ダイラ、チョーライ)の地域からの移住者が多数を占めていることと併せ考えると、「ジョログモ」「ジョロウグモ」の変化した方言として「ジョウラン」を理解するよりは、「ダイラ」「デーラン」の変化として理解するほうが適切であると考えられる。

(4) 方言と地域交流

中平 清氏(高知)によると、高知、宿毛方面では「ダイラ」が主流をなしている由であり、「ダイラ」を仮に宿毛地域の独自発生のまたは伝来地継承の呼びかたと仮定すると、「ダイラ」が、豊後水道の対岸である大分県南部に、人の交流によってもたらされたか、または、古く、宿毛と同時に発生したか伝来したかのうち、いずれかであろう。

県南佐伯・蒲江・地方の漁業実態から、漁船による往来は伝習的なものがあり、現在でも県南漁民にとって、宇和海・宿毛などは、全くの隣接地と考えられているだけでなく、「漁場」と言う感覚で親しまれている。

それだけでなく、土佐・伊予・豊後の人々の交流は、歴史にうとい筆者ですら古くから相当のものがあつたであろうことを推察できるし、県南地域の経済人構成からもうかがうことが出来るものがある。

従って、土佐・宿毛地域の「ダイラ」が、人の交流、移住によって、流動先の大分県南部に分布し、県南部を基礎として、豊後水道沿いに北上する人々の移動と、分散定着によって沿岸各地に分布したうえで、地域的に促音便その他の変化を生じたものであろうと考えられる。

(5) ダイラの地域変化とつながり

「ダイラ」を基礎とする立場から、コガネグモの方言変化を検討すると、極めて感覚的ではあるが、図-4に示したように組立てが出来る。

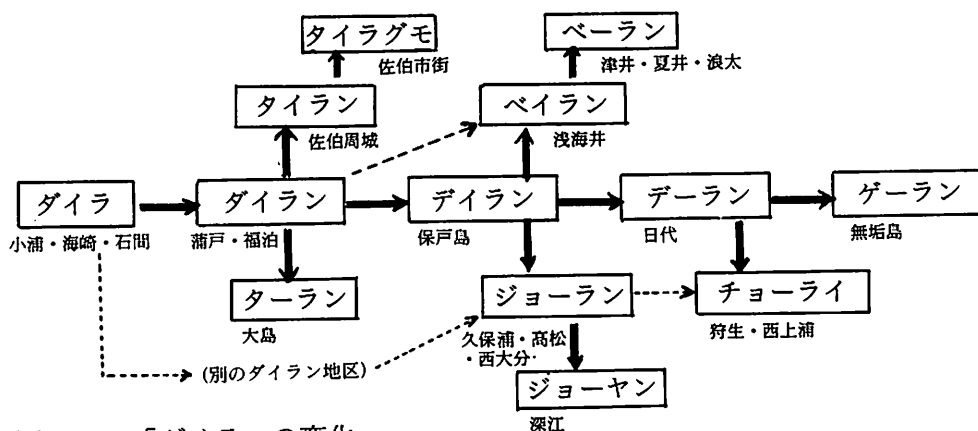


図-4 「ダイラ」の変化

言語学的音便とか転化についてうんぬんすることは、筆者には出来ないことであり、たゞ同じ大分方言の中で育ち、大分方言の変化を活用している大分人としての組立てであり、言語学者による検討の素材となれば、報文にとりまとめた者として望外のものがある。

只、念のために大分方言の変化、転化の例として特に県南地域のものを挙げると次の通りである。

- 「私達」→「私どう」→「私ろう」→「うっとう」→「うんだあ」
- 「裏の山」→「裏ン山」(ほゞ全県)
- 「だいぶ、くたびれた」→「だいぶん、くたぶれた」→「でえぶん、くたぶれたよー」(県南)
- 「お前達、鯛を食ったのだな。!!」→「ワレどうイワシユー 食たんじゃの。!!」→「ワンろう、イワシヨー、食うたんらいのー!!」(大入島)
- 「魚釣りに行っている」→「イオツリィ、イッチョル。」
- 「行っていた。」→「行ッチョッタ」
「行っていない。」→「行ッチョラン」
「～されていた(受動)」→「～シチョラレタ」

少数例で牽強附会しようとする意味でなく、方言変化の傾向を知ってもらうための挙例であるが、これらの傾向から、図-4組立ての底流を推察していただければ目的は達する。

(6) ダイラの変化と地域交流・移住

図-4によって、ダイラ→ダイランの変化や、ダイラン→デイランの変化を追い、その地域と併せて考えると、一つの特徴として古くからの漁業基地であったところで、変化の節があり、その基地周辺で転化、音便などの変移が拡がっている傾向が知られる。その最も典型的なものを図示してみると、図-5に示したとおり、この傾向を説明できる。

漁業基地から漁業基地へと拡散した人々が、基地周辺の小集落へと更に分散し、土地に密着して行った歴史として、このコガネグモの大分地方方言の変化をとらえると、「クモの名前」が意外な人類文化の交流史を示すものとして注目されることになる。

(7) 方言変化推移の逆順位

ダイラ→ダイラン→デーラン→ジョーランの順序で、コガネグモの地方名の方言変化を検討して来たが、逆の順序として、ジョログモ→ジョロウグモ→ジョーラン→デイラン→ダイラの推移を考えて見る事も必要であろう。

その背景となる人類文化史上の立場として、北九州から豊後水道ぞいに南下した人類史跡に着目するか、南西諸島方面から黒潮によって北上した人類史跡に着目するかは、論者が各別に選択するところであろうし、ここでは一つの検討方向として挙例するにとどめる。加え

ジャバラグモ九州で発見

八木沼 健 夫

A tetrablemmid spider was found in Kyushu.

Takeo YAGINUMA

Biol. Lab., Otemon Gakuin Univ.

Ibaraki, Osaka, Japan

沖縄本島および周辺の島々にジャバラグモを産することは、小松敏宏博士が記載して以来、下謝名松栄氏の諸報告で知られていた。しかしそれらの島々よりはるか北の地域からは発見の予想もできなかった熱帯系のジャバラグモが、1983年鹿児島県で発見されたのでビッグニュースとしてこの誌上をお借りしてお知らせする。

本来ならば採集者または最初の同定者である大熊千代子氏から発表されるべきものと思われるが、お二人から依頼を受けたので僭越ながらかわって報告させていただく。

ジャバラグモ *Ablemma (Ablemma) shimojanai* (KOMATSU, 1968)

ジャバラグモ科 Tetrablemmidae プリニヨリジャバラグモ亜科 Brignoliinae

産地：鹿児島県城山（キムラグモの最初の発見地）。12—VII—1983。2♀, ♂

採集者：坂井数美氏（鹿児島大学理学部、動物学科3年）地下10cmの土壤中。

ツルグレン装置で採集〔本種は従来はほとんど洞穴で採集されていた。〕

私はすでに沖縄産のものを見ており、また最近では将来発行の図鑑に入れるべく観察していたところなので興味を以てお借りした標本を検したところ、大熊氏の同定通りまさしく同種であることを認めた。思いがけず九州で発見されたことは特筆に値するとともに、九州—沖縄間にも分布する可能性を生み出した。

既地産地：沖縄本島各地洞穴・久米島・粟国島・沖永良部島・徳之島・宝島・伊平島などで、鹿児島との間がぬけている。八重山諸島にも同属を産するが別種である。

ジャバラグモはもと、*Tetrablemma shimojanai* として発表されたのであるが、この科に関心を持っていたアメリカの W・A. SHEAR 博士が、細分属 *Ablemma*, ROEWER, 1963 を認めてこれに転属した。また LEHTINEN 博士もこれに同意 (1981) している。BRIGNOLI (1973) の記述では頁により、*Ablemma* や *Tetrablemma* が使われてはつきりしない。SHEAR 博士はアメリカ博物館にある標本 (SEDGWICK, W. 7—111—1972, ♀♂。沖縄那覇南方海兵隊基地付近の洞

穴)に基づいて研究した。〔SEDGWICK氏は何度も日本へ来ている。〕

Tetrablemma や *Ablemma* は古くは *Oonopidae* に入れられていたが、のちに *Tetrablemmidae* O. P. —CAMBRIDGE, 1873に転ぜられた。

Ablemma は20種あまりが広く南方熱帯に分布し、カロリン・パラオ・ボルネオ・フィリピン・タイ・ソロモン・チモール・スマトラ・ニューギニア・スラベシから知られている。

おもな文献 (発表年代順)

- 1.KOMATSU, T.,1968.Two new cave spiders of genera *Tetrablemma* (*Oonopidae*) and *Dolichocybaeus* (*Cybaeinae*), *Acta arachnol.*, 21 (2) : 35—39.
- 2.BRIGNOLI, P.M., 1973. Ragni della Melanesia.1,Un Nuovo *Tetrablemma* di Guadalcanal (Solomone) .*Mem.Soc.entom.Ital.*, 52 : 79—88.
- 3.下謝名松栄, 1976. 沖縄の自然 (島の自然と鍾乳洞), 新星図書, pp.1—189.
- 4.SHIMOJANA, M., 1977. Preliminary report on the cave spider fauna of the Ryukyu Archipelago. *Acta arachnol.*, 27 (sp.no.) : 337—365.
- 5.SHEAR, W. A.,1978. Taxonomic notes on the armored spiders of the families *Tetrablemmidae* and *Pacullidae*.*Amer. Mus. Novit.*, (2650) : 1—46.
- 6.沖縄県教育委員会, 1978. 沖縄県洞穴実態調査報告, I.沖縄県天然記念物調査シリーズ, 14. pp.1—137.
- 7.同上, 1979. 同上, II.シリーズ, 16. pp.1—156.
- 8.同上, 1980. 同上, III.シリーズ, 12. pp.1—142.
- 9.LEHTINEN, P.T., 1981. Spiders of the Oriental—Australian region. III. *Tetrablemmidae*, with a world revision. *Acta zool. fenn.*, (162) : 1—151.

会 誌 投 稿 規 定

1. 寄稿者は会員に限る。
2. 原稿の内容は、蛛形類に関するものなら、解説・記録等なんでもよい。ただし、エッセイ等は筆者の了解があれば、「会報」に掲載することもある。
3. 20×20字原稿用紙に、1マス1字で書くこと。ただし、欧文は2マス3字とする。
4. 学名は、赤でアンダーラインを引くこと。
5. 図は墨入れをし、そのまま印刷ができるよう完全なものに仕上げること。
6. 論文の場合は、欧文タイトル、氏名、所属（住所）をつけること。
7. 写真版等特殊技術を要する印刷費用は個人負担とする。
8. 原稿は図表を含め、出来上がり6頁以内とする。それ以上の長さの原稿については、分載するか、もしくは超過分の費用を個人負担とする。
9. 文献表は、次の例に準じて作成すること。(例) 大熊千代子, 1957. トリノフングマシの造網, *Alypus*, (13): 3-4.
10. 別刷は個人負担, 必要部数を原稿第1頁に赤で記入のこと。

(原稿の送付先)

〒861-05 熊本県山鹿市小原 熊本県立教育センター・生物研究室内 入江照雄

会 報 投 稿 規 定

速報的記事, エッセイ, 自己紹介, ニュース, 日頃の所感, 会に対する注文, 採集会の案内等なんでも結構です。また研究の疑問を寄せあい, それについてみんなで考えるなど, 情報交換の場としても役立てていただきたく思います。原稿は原則として約2,000字以内とします。どうか軽い気持ちで投稿お願いいたします。

(原稿の送付先)

〒812 福岡市東区箱崎 九州大学農学部昆虫学教室内 九州クモの会

編 集 後 記

- HEPTATHELA, VOL. 3, NO. 1をお届けします。今回は、千葉での第16回東亜蜘蛛学会までに発行できず、会員諸氏には大変申し訳けなく思っています。
- 7月のメ切までに、投稿が1編だけとさびしいかぎりでした。メ切を2カ月延期したところ、5編になり、内容もバラエティーに富み、またページ数も満足のゆくものとなり、ほっとしたところでした。
- 今回は、はからずもササグモとシモフリヤチグモの外雌器の二型についての報告があり大変興味深いものとなりました。今後、他の多くのクモでの外雌器の変異が論じられるようで楽しみです。
- なお、投稿者に片寄りがみられてきたようです。短報でも結構です、会員諸氏の気楽な投稿をお待ちしています。
- 今後とも、サークル誌にふさわしい内容のものにしていくつもりです。会員諸氏のご協力をお願いします。

HEPTATHELA VOL. 3, NO.1

1984. 11. 20発行

編集者 入 江 照 雄

発行者 吉 倉 眞

発行所 九州クモの会

〒812 福岡市東区箱崎

九州大学農学部昆虫学教室内

印刷所 下田印刷熊本支店 (096) 354-9331

熊本市迎町1丁目4の16